

脳の病気と脳ドック

今回は、代表的な脳の病気と、それらの早期発見に有効な「脳ドック」についてご紹介します。

【脳腫瘍と脳血管障害】

脳の代表的な病気として、脳腫瘍と脳血管障害があります。脳腫瘍は約半数ががんと違って良性なので、早期発見で根治する可能性が十分にあります。脳血管障害には、血管がつまる脳梗塞、高血圧によって血管が切れる脳出血のほか、脳動脈瘤という血管のこぶが破裂するクモ膜下出血があります。

クモ膜下出血は、脳の血管の病気の中では最も怖い病気で、最初の出血で約半数の人は死亡します。出血が軽い場合は、治療で社会復帰も可能です。しかし出血を未然に防ぐためには、破裂前に瘤を診断するしかありません。脳腫瘍、脳動脈瘤、脳梗塞、血管の動脈硬化の早期診断には、磁気を用いた「MRI」（磁気共鳴画像）による脳ドックが有用です。

【脳ドック】

脳ドックでは、苦痛を伴わずに、脳や脳血管の病気を診断できるMRI検査装置を使用します。

■MRI（脳の形態検査）

脳腫瘍や脳梗塞など、脳病変の早期診断に大変有用です。無症状の、小さな、いわゆる“隠れ脳梗塞”も容易に診断できます。この病変が多数見付かれば、症状が無くても、受診者は高血圧、糖尿病、高脂血症、肥満、運動不足、喫煙、多量の飲酒に十分注意すべきです。

■MRA（脳の血管検査）

MRI検査装置を使ったMRAによって、脳血管もよく分かり、未破裂脳動脈瘤や、脳血管の狭窄や閉塞の診断が可能です。脳動脈瘤を破裂前に診断できれば、部位や形態によっては治療をし、クモ膜下出血を未然に防ぐことができます。クモ膜下出血の家族歴（特に親や兄弟）がある人は、脳ドックの受診をお勧めします。

（このコラムは市立病院 病院総務課 電話（260）0111が担当しています。）